

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と今後の改善方策 学校関係者の意見
	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
1 生徒を伸ばす学習指導	① 分かる授業と基礎基本を定着させる指導と支援 ② 学習意欲を向上させ、学習習慣をつける指導 ③ 効果的な習熟度別授業展開と個別指導の充実 ④ 国際交流活動を通しての異文化への興味・関心の向上と異文化理解 ⑤ 普通科及び森林クリエイト科の特長を生かした教育活動の充実	① 研究授業(教科) 全教職員が年間2回以上参加 ② 家庭学習時間1時間以上の割合 40%以上 ③ 那賀高校は一人一人の希望・能力・適性に応じた、進路指導をしている。「当てはまる」と答えた生徒の割合 80%以上	・初任者研修、授業力向上研修、中高ティームティーチング公開授業等、研修の機会を活用し、授業力向上に関する研修を行う。 ・年2回の相互参観授業月間を設定する。 ・1週間ごとに週末課題を課し、家庭での学習習慣をつけさせる。また、実態に応じた補習授業を計画し、積極的に実践する。 ・コース選択を見据え、十分なガイダンスを行い習熟度別また科目選択において少人数による指導を徹底する。さらに補習においては学科の枠を越えた横断的な授業展開を行う。また、授業の指導法と評価の在り方について全教職員が研修し、実践する。 ・学年初めに各学年の進路希望の状況と成績等の現況について分析し、実態に応じた補習、個別指導を実践し、実態に応じた補習計画等の年間計画を立てる。年間5回の進路希望調査を行い、個別指導計画の見直しを行う。 ・校内実力テストや模擬試験の成績、生徒の進路希望等を教員間で情報共有することで、教員が連携して、個々の生徒への学習指導につながる体制を築く。				
		④ オンライン会議や電子メール等の活用による新しい生活様式に対応した国際交流活動を相手先担当者と検討を重ねて、実施する。(年1回以上)	・隔年でのオーストラリア・セントメアリーズ校との相互交流が新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中断している状況である。電子メール等のICTを活用しての新しい国際交流の形を模索し、生徒たちにグローバルな視点を養う交流を行う。 ・ドイツニーダーザクセン州の生徒との交流についても、オンラインの活用を検討する。				
		⑤-1(両学科共通)生徒の授業満足度 80%以上 ⑤-2 普通科及び森林クリエイト科の教育活動について互いに理解している生徒の割合 75%以上	・(普通科)2年次からコース選択制の授業展開とし、コース選択におけるミスマッチがないよう、各コースの特長を生かしつつ、一人一人の進路希望に応じた指導を行う。 ・(森林クリエイト科)林業学習を中心として、関係機関と連携し、地域資源の活用や最新技術の習得、インターンシップの充実、資格取得等をおして専門的知識・技術の深化を図る。 (ア) 地域資源の活用 → 地域機関との連携学習を5回以上実施する。 (イ) 最新技術の習得 → 高性能大型林業機械、ドローン等の講習会を3回以上実施する。 (ウ) 資格取得 → 林業関係の資格を3つ以上取得する。 ・生徒が那賀高校の特長である普通科と農業科(森林クリエイト科)併置の強みを理解できるよう、教育活動の場面で周知を図る。				

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と今後の改善方針 学校関係者の意見	
	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価		総合評価
2 心のかよう生徒指導	① 欠席数・遅刻者数 前年度の80%以下	① 服装・頭髪検査違反者 全体の10%以下 ① 生徒が食生活や郷土の食文化に関心を持つ 学校行事や授業年1回以上実施	・学習習慣を確立，個人面談等を実施し，保護者との連携も図りながら，生徒が登校できるように支援する。 ・遅刻ゼロ週間，遅刻者集会を実施する。また，毎朝バス停留所前での登校指導の実施や遅刻生徒の入室許可証の提出を徹底させる。 ・全校集会での生徒生活指導講話や服装・頭髪検査を実施する。また，違反生徒については担任・学年団・生徒課が連携して指導する。 ・定期健康診断結果に基づき医療機関への受診勧告や保健指導の充実を図る。 ・食生活に関するアンケートを実施し，給食検討委員会や食育推進委員会を実施し，食に対する意識を高める。 ・地元の伝統的な相生晩茶の茶摘み体験を2年生福祉コースの生徒が行い，希望者には，地域の食材を用いた調理実習を行う。 ・寮生会議を毎月実施し，寮生が，自身の生活を振り返り，より良い生					
	① 基本的生活習慣の確立							・毎朝バス停前での登校指導を実施するほか，学校安全の日の登校指導を実施する。また，交通安全教室を年1回以上実施する。さらに，秋の全国交通安全運動期間中での交通安全運動を実施する。 ・「学校安全の日」や薬物乱用防止教室を実施するほか，携帯電話安全教室を実施する。また，地域ぐるみで生徒の健全育成に取り組む中高生徒指導委員会を開き，合同巡視を実施する。 ・帰省や外出における規則を遵守させることで，規律を守ることや，防犯・安全に対する意識を高揚させる。
	② 安全・安心な学校教育の実施と保護者との連携強化							
③ 個別指導をととした生徒理解と望ましい集団づくり								
④ 特別活動・部活動の更なる活性化と生徒・教職員の信頼関係の強化								
	② 交通・生活安全指導 毎月実施							
	② 寮の帰省届・証明書提出率100%							
	③ 感染症に罹患した生徒数の前年度比減少	・感染症や伝染病予防の充実を図るため，年度当初及び必要に応じて随時個人面談や保健調査を実施し，健康で安全な学校生活を送るために必要な情報を集め，学習環境を整える。 ・年4回環境衛生検査を実施し，結果をもとに安全で衛生的な学校生活を送るため，よりよい教室環境を整える。 ・保健委員会の活動として，感染症予防のための教室の換気や手洗い・うがい・マスクの励行など啓発する。 ・事故や災害に備えて，自他の生命を守るための知識と意識の高揚を図る。 ・生徒のメンタルケアと，いじめ等を早期発見するため，学校生活に関するアンケート調査を実施する。						
	③ AEDを用いた心肺蘇生法や救命救急処置法に関する講習会 年1回以上実施							
	③ 学校生活に関するアンケート調査 年4回実施							

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の 達成度	活動計画の 実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見
	④ 球技大会や学校祭等の学校行事 「満足」と答えた生徒の割合 80%以上	・部活動顧問会議で部活動運営上の諸課題について顧問間の共通理解を図るとともに、部活動連絡協議会を通じて部活動生徒を指導する。全校一丸となった指導を行うことにより生徒・教職員の絆と信頼関係を強化する。 ・生徒会役員・部活動生徒が活躍し、特別活動関連行事が円滑に実施できるよう、企画から運営まで計画的に指導する。					
	⑤ 担任による個別面談 年3回以上実施 夏季休業中の三者面談 全員実施 ⑤ スクールカウンセラーとの連携を密に図った教職員校内 研修会 年1回以上実施 ⑤ 特別な支援が必要な生徒の指導について、関係機関において相談や支援が受けられるよう、生徒や保護者に働きかけを必要に応じて行う。	・教育相談や特別な支援を要する生徒を早期に発見し、保護者とも連携して、適切な対応・支援をする。 ・学習支援員とも連携し、支援を要する生徒へのきめ細やかな指導を行う。 ・各学年団との情報交換をするとともに、教育相談に関するアンケートを年3回以上実施する。 ・校内研修会(ケース会議を含む)の実施により、教職員の特別支援教育に関する理解を深め、生徒への指導や支援に活かす。また、学年会や教科会において情報交換を図り、適切な支援や対応について共通理解を図る。生徒・保護者対象に、相談の啓発を行い、円滑な学校生活への支援体制を築く。 ・卒業後の進路実現に向けて、保護者とも連携が図れるよう、早い段階から面談を実施する。					

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と今後の改善方策 学校関係者の意見
	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
3 学びあい響きあい高めあう 心の教育の推進	① 豊かな人間性と社会性の涵養により自信や誇りをもたせる ② 人権意識の高揚と一人一人の人権が尊重される学校づくり ③ 情報モラル教育の推進 ④ 学校・家庭・地域との連携の強化	① 学校行事により、集団への帰属意識や協調性が養われたと答えた生徒の割合 80%以上	・遠足・文化祭・体育祭や大学短大等への体験入学・企業へのインターンシップなどの行事において、地域住民や中学生との交流を深めることにより、マナーやモラル、思いやりを身につけ、人間性や社会性を高める。				
		②-1 校内人権問題意見発表会や人権映画鑑賞会などの行事 年1回以上開催 ②-2 いじめ等のアンケート調査 年4回実施	・生徒の人権意識の高揚のために、校内人権問題意見発表会で身近な人の意見を聞くことにより、様々な人権課題を自分自身の問題として捉え、人権問題を解決する意欲や実践力を養う。 ・映画のストーリーについて考えたり、登場人物の気持ちに寄り添ったりすることによって、自他を尊重する態度を育成できるよう、連携中学校と相談しながら映画を選定する。 ・アンケート調査結果により、人間関係の把握に努め、助言や支援が必要な生徒には、速やかに面談を実施する。 ・家族的なあたたかい雰囲気づくりに努めるために、学期に1回部屋替え及び役割分担の変更を行い、レクリエーションを年3回実施し、学年間の交流を促進する。寮生活に慣れることができるよう、日直・舎監が積極的に声をかけをし、寮生全体の雰囲気を把握する。				
		③ インターネットやSNS等の利用における情報モラルに関する人権放送等の全学年行事 年1回以上実施	・タブレット端末の使用にあたってのルール作りを進め、家庭での活用について保護者との連携を進める。 ・教科指導のみならず全てのICT活用場面の機会を捉えて情報モラルに対する啓発を行う。 ・人権放送において、インターネットやSNS等に関する情報モラルのテーマを				
		④ 学校・家庭・地域との連携の強化を図るために、PTAや人権擁護委員に対して人権映画鑑賞会や校内人権問題意見発表会への参加を依頼し、広報する。 ④ 校内の人権に関する行事や部活動の様子について、月1回以上ホームページに掲載する。	・保護者・地域・近隣学校を対象にした人権映画鑑賞会や校内人権問題意見発表会の案内を、ホームページへの掲載等を通じて行う。 ・人権擁護委員へ参加を依頼し、連携を強化する。 ・人権に関する行事を計画したり、ゆずの会の活動を積極的に行ったりする。				

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と今後の改善方針 学校関係者の意見
	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
4 夢をはぐくむ進路指導	① 進路実現を図る学力の育成 ② 進路意識を向上させる各種行事の計画と実施 ③ 進路ガイダンスの充実と教職員のガイダンス能力の向上	①-1 進学希望者対象の早朝補習 1・2学年 週3回 3学年 週5回実施	・基礎学力の底上げと、校外模試に対応できる応用力を養うために、早朝補習を計画・実施する。 ・進路検討会等により、担任面談結果を学年団で共有し、生徒の指導を連携して実施する。 ・各種関連機関と協力して、生徒の進路実現のための進路ガイダンスを実施する。 ・総合的な探究の時間(FDタイム)を活用して、大学・専門学校等の訪問(1年)やインターンシップ(2年)の振り返りを実施し、生徒のキャリア形成を支援する。 ・Classiのポートフォリオを活用し、個々の生徒の学びを振り返ることのできるキャリアパスポートを作成する。				
		①-2 個々の進路実現に向け、個別の説明会、模擬試験、放課後補習などの指導を実施する。 ② 学年段階や学科・コースに応じた進路ガイダンス 年2回以上実施 大学等訪問(1年) インターンシップ(2年)実施					
	④ 資格取得・検定合格に向けた指導の充実	③ 校内説明会やオンライン研修 年3回以上開催 研修会 教員の70%以上参加	・各種大学等の説明会への積極的参加を教員に周知する。 ・GIGAスクール委員会と連携し、スタディサプリやClassiなどのオンライン研修会参加を積極的に呼びかける。				
	⑤ 保護者対象進路説明会の充実	④-1 生徒個々の能力にあった資格取得の指導を徹底し、各科と連携を図りながら、資格検定を実施 各学期3回以上 ④-2 全校生徒の資格取得率 60%以上	・各教科と連携して各種検定を年度当初に計画し、実施する。				
		⑤ 各学年の保護者対象の進路説明会 年1回開催 同 参加率 50%以上	・学年主任を中心にして、学年の課題を共有し、テーマを明確にして各学年の進路説明会を開催する。				

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と今後の改善方策 学校関係者の意見	
	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価		総合評価
5 G I G Aスクール構想の推進と防災教育・環境教育の推進による学びと働き方の改革	① GIGAスクール構想の推進による学びと働き方の改革 ② 防災・減災教育の深化とエシカル教育の充実 ③ 「徳島県新学校版環境ISO」の認定取得経験を生かした環境教育の実践 ④ 校内外の環境美化活動の推進	① 昨年に引き続き、タブレット端末を活用した授業やポートフォリオ作成に向けた体制整備の強化を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アプリの活用法についてweb研修等を活用する。 ・情報セキュリティ担当部署をさらに強化する。 ・共有フォルダや動画等を活用した研修、教員同士の協働を推進し、全員が集まった研修を減少させる。 ・ICTの活用について相互研修・研究を行う。 					
		②-1 防災避難訓練・講習会等 年4回以上実施	<ul style="list-style-type: none"> ・防災避難訓練を学校や寮で実施し、生徒の学校防災人材支援講座への参加を支援する。 ・防災食づくり講習会を通して地域の方との交流を深め、防災意識の向上を図る。 					
		②-2 エシカル消費に関わる『服活』等のイベントを年5回(校外3回)以上実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやSNS, ポスター掲示により、服の回収や「服活」イベントへの積極的な参加を呼びかける。 					
		③④ ごみの分別が「できている」と答えた生徒の割合 90%以上 ③④「教室の環境整備が行われている」と答えた生徒の割合 80%以上 ③④ SDGsを『知っている」と答えた生徒の割合 60%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒が校内でのゴミの分別を徹底できるよう、定期的な環境委員によるゴミ箱のチェックと分別の呼びかけを行う。 ・環境委員を通して教室の美化・環境整備を徹底し、日々の清掃活動の徹底に加え、大掃除の際に普段できていないところまで清掃を行うことで、校内美化活動を推進する。 ・那賀高前バス停留所及び周辺の美化活動に取り組むとともに、バス利用者にマナーの遵守を呼びかける。 ・節電・節水の啓発及び電気使用量の昨年度比較を周知し、徹底した省エネ意識の高揚を行う。 ・身近な行動が、持続可能な社会の形成に関わっていることを、「現代社会」「家庭基礎」等の教科を通じて学習を深める。 					

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と今後の改善方針 学校関係者の意見
	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
6 連携型中高一貫教育プログラムの推進	① 地元中学校との連携を強化した授業の実践 ② 学校行事における合同事業の充実 ③ 連携中学校への積極的なPR活動	① 中高一貫教育研究委員会の教務委員会を活用し、チームティーチングにおけるオンライン教育での連携のあり方について検討を進める。	・TT実施時間の確保に努め、またTTの方法についてICTの活用を含め中高一貫教育研究委員会の教務委員会において検討する。 ・タブレット端末の教育活動における活用状況について、連携3中学校と情報交換し、高校への円滑な移行について協議する。 ・高校・中学校双方が実施する授業研究会や公開授業について、オンライン・オフライン問わず積極的に参加する。				
		②-1新しい生活様式下での学校行事での合同事業について、ICTの活用や開催方法の工夫などを協議して開催する。 ②-2各部活動において、連携中学校との合同練習や練習試合、体験会を実施する。 ②-3那賀高校生徒会と連携中学校の生徒会の交流集会 年1回実施	・那賀高祭での連携中学校生の参加について、参加形態や方法について事前の連携、打ち合わせを早い段階で行う。 ・各部活動で中学生を受け入れ、中学生体験入学時や他の時期にも体験入部を実施する。 ・那賀高校と連携中学校の生徒会役員による各学校紹介や情報交換・レクリエーション等を実施し、交流を深める。 ・連携中学校での学校行事や学級会活動において、那賀高校の説明を実施したり、生徒会同士の交流を行う。 ・すべての交流活動において、リポートでの活動も検討する。				
		③各連携中学校とテレビ会議システムを用いた生徒同士の交流 年1回実施	・連携各中学校とテレビ会議システムを活用し学校紹介をする。				

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と今後の改善方針 学校関係者の意見
	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
7 地域に開かれた活力ある学校づくりの推進	① 学校運営協議会において、本校教育活動や地域の抱える課題等について協議し、新しい取組を検討する。	・学校運営協議会を年3回実施し、特色ある教育活動等を協議し、地域と協働して実施していくことのできる取組を検討する。					
① コミュニティ・スクールの導入による地域とともにある学校づくり ② 魅力ある学校行事の実施と保護者や地域の人々への学校公開	②-1 球技大会や学校祭等の学校行事について、「満足」と答えた生徒の割合80%以上(再掲) ②-2 一般公開される行事(那賀高祭等)について、期日・内容等を早期から広くPRする。	・学校行事に生徒が主体的に参画できるよう、生徒会が中心となる取組を検討する。 ・参加可能な地域の活動・行事に、ボランティア活動等で参加する。 ・一般公開される行事の期日・内容等を地域のケーブルテレビ等を使って広報するとともに、地域の方が参加して楽しめる内容のイベントを企画して実施する。 ・コロナ禍においても、那賀高祭等の学校行事や日々の学校生活について保護者の意見を聞く機会を設けられるようICTの活用等について工夫する。 ・広報新聞の紙面構成を検討し、内容を充実させる。					
③ ホームページ、広報新聞、ケーブルテレビ等によるPR ④ 地域との連携を密にした学習活動と地域の担い手となる「人財」の育成	③ 広報新聞(「せせらぎ新聞」) 年3回発行 ④-1 地域と連携した社会人講師の活用 6回以上実施 ④-2 地域産業の体験活動を実施 年間1回以上実施 ④-3 地域でのインターンシップを実施 1名1週間以上実施						